

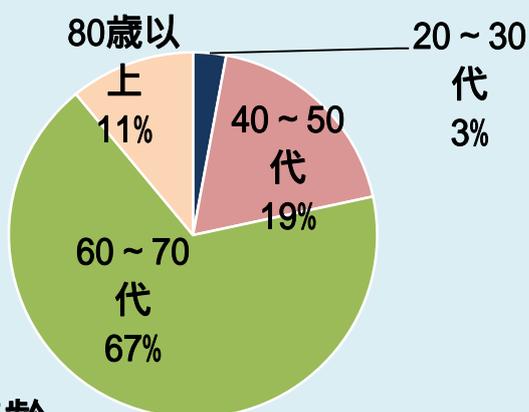
## 聴覚障害者の旅行に対する関心や意識調査アンケート まとめ

全難聴高年部

### 1 調査概要

2014年8月8日～2014年9月30日の期間に於いて、全国の難聴者、中途失聴者を対象に2ページの調査用紙を配布。高年部事務局へ返却いただいたものを分析した。有効回答数 310。調査用紙の配布は全難聴を通じて加盟協会へ送付した。

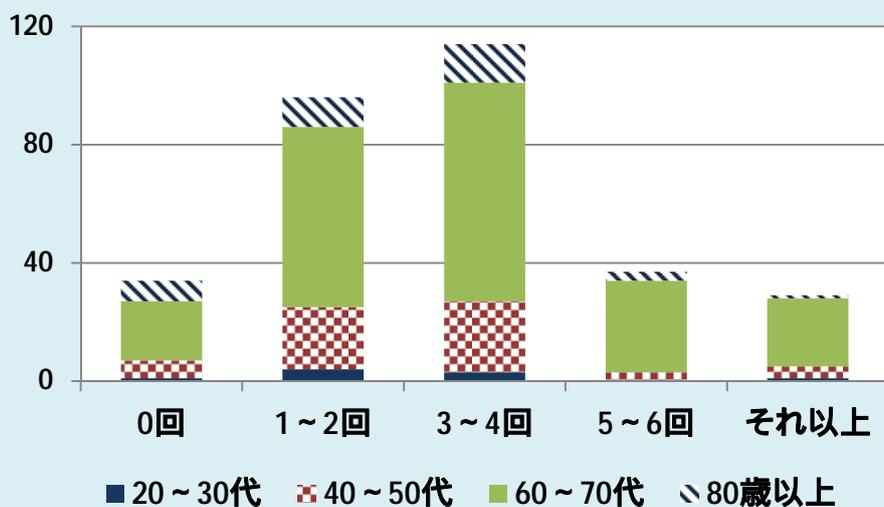
### 2 調査結果及び考察



回答者の年齢は60～70歳代が67%と最も多く、次いで40～50歳代が19%、80歳以上が11%であった。また、回答者の男女比は男性が36%（113名）、女性が64%（197名）であり、年代ごとに大きな差は見られなかった。

図1 年齢

### 図2 ここ一年の旅行頻度



ここ1年間にどのくらいの頻度で旅行に出かけているか。全ての年代に於いて、3～4回が114名と最も多く、次いで1～2回が96名であった。60～70歳代に於いては、5回以上が26%（54名）とかなりの割合を占める。

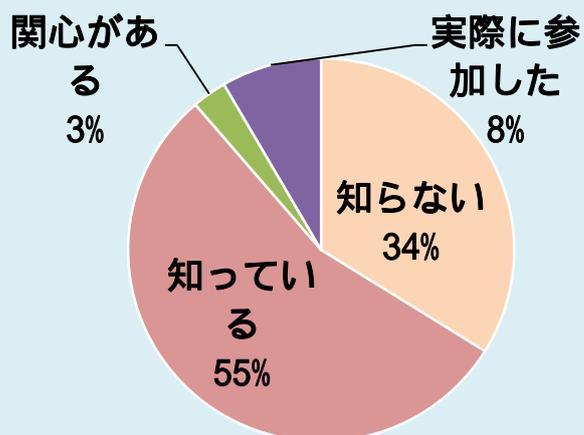


図3 バリアフリー観光の認知度

車椅子や手話通訳者同行のバリアフリー観光を知っている人は55%と高いが、実際に参加した人は8%と少ない。知らない人も34%と全体の3分の1を占める。

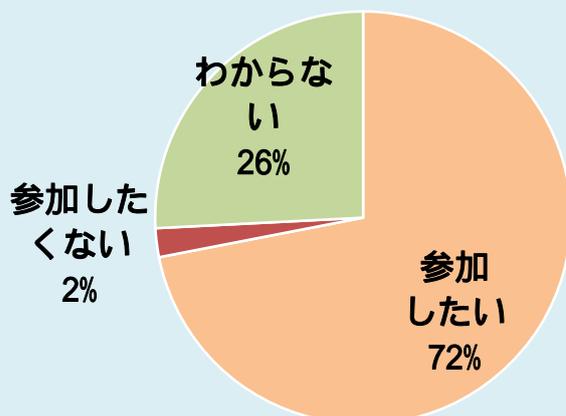
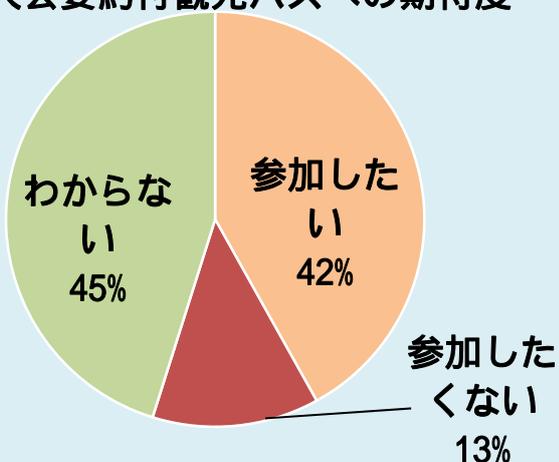


図4 要約筆記付きツアーの期待度

要約筆記付き観光ツアーへ参加したい人は72%と高く、参加したくない人は2%(7名)と低かった。参加したくない理由は、気を使うなどだった。

図5 三重大会要約付観光バスへの期待度



三重大会で要約筆記付きの観光バスへ参加したい、または同じことを地元で実施したいは42%(130名)と、前項(図4)と比べると低く。「わからない」が45%(140名)と多かった。実際に参加してみないと分からないという意見がみられた。

### 3 これまでの体験から

#### 良かったこと

観光地の情報を事前に調べておいたので、それなりに楽しめた  
ガイドが親切で大事なことは筆談で伝えてくれた  
補聴器、人工内耳の聞こえで相応に楽しめた  
同障害者の仲間と一緒に参加したので心強かった  
健聴者の家族と一緒に参加しフォローしてもらった  
不自由ながらも他の参加者と会話を楽しめた  
他の参加者に筆記通訳してもらえた  
飛行機搭乗時などでメッセージカードの配慮は嬉しい  
ハイキングツアーで草花の由来等説明が分からなかったが、それをガイドに伝えたら後日、自宅に FAX  
が届き、その草花の説明が書かれていて嬉しかった

#### 残念だったこと

ガイドの説明が聞き取れず、観光地の説明も分からず、楽しさが半減  
ガイドの話しが分からず車内で眠ってしまう  
車内でマイクの声は聞き取りにくい  
車内のテレビや宿泊先のテレビに字幕がない  
車内のゲームは説明が理解できず悔しい思いをした  
他の参加者との会話が円滑にいかない。集団の中で孤立した  
健常者の友人と一緒に参加したが、かえって気を使う  
観光地で迷子になった  
集合時間が分からず不安、または無駄な時間を過ごした  
集合時間を聞き間違え、他の参加者へ迷惑をかけた  
突発的な計画変更や事故があると情報が伝わらず不安  
緊急時にガイドへ連絡（電話）が出来ない  
単独行動が不安で他の参加者の後を付いて行動するしかなかった  
難聴と伝え配慮を求めたら「他の客に迷惑をかけないようにしてください」と応えられて悲しかった  
旅行代理店に健常者（介助者）と一緒になければ申込みを受け付けられないと言われた

#### その他のご意見

ツアー料金は同じなのに、得られる情報や歓楽に格差があるのは不公平と思う  
難聴者も積極的に参加し、旅行代理店などへ要望を伝えていくことは大事  
難聴ゆえに悔しい、悲しい様々な思いがあるが、黙従せず自分の感じたことを添乗員へ伝える

## 4 理想とする観光旅行

健全者も障害者も一緒に楽しめる  
障害者がひとりでも安心して参加できる  
他の参加者とコミュニケーションが取れ、新しい出会いが得られる  
自分の聞こえに適した情報保障を選べる  
少人数のグループ構成で行き届いた配慮がある  
宿泊先や車内のテレビに字幕表示がある  
バスなど車内に磁気誘導ループの設置がある  
夜間の災害時に適切な避難誘導をしてもらえる  
詳細なスケジュール案内が配布される  
聴覚の代わりに味覚、視覚、嗅覚を感動させられる  
旅行先の現地の方々や土産物屋で気軽に筆談を楽しめる  
筆記通訳のため通常より時間にゆとりが欲しい  
観光地の文字情報設備が充実している  
ガイドがFM補聴システム等を使用している  
タブレット端末や、眼鏡型ウェアラブル端末で情報保障がある  
遠隔情報保障がある

## 5 総括

今回のアンケートから分かったことは、コミュニケーションが思うようにとれないことで旅行を断念している方が少なからずおられます。

これは、難聴者にどのような配慮が必要なのか分からないことからきていると思います。

例えば車内でのマイクの声は聞きとりにくいのですが、バスガイドさんは知らないのかもしれませんが、ではどうしたらよいかもわからないのです。

難聴者に対するバリアフリー観光はまだまだ緒に就いたばかりです。

難聴者も旅行を楽しむために、どのような配慮が必要なのか、私たち自身がじっくり考えて、建設的な意見、要望を社会に訴えていきましょう。

地域協会で開催する旅行において、要約筆記以外にどのような工夫が必要か、アンケートなどで意見抽出し、その結果を旅行代理店に報告するのをもひとつの方法と思います。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様へ、この場を借りてお礼申し上げます